

## 院内がん登録実務者の皆様へ



### 東 尚弘

国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター

2016年よりがん登録推進法が施行され、これまでの地域がん登録が、全国がん登録へと制度が統一されて以降、院内がん登録も法的根拠を獲得しました。とはいえ院内がん登録は従来からがん診療連携拠点病院等の指定要件として行われており、法律で規定されたといっても、実際の登録現場では標準登録様式が変更になったぐらいであり目立った変化はないかもしれません。しかし、徐々にではありますが院内がん登録の位置づけや、院内がん登録実務者の皆様への期待は変化しつつあります。初期の院内がん登録は、地域がん登録の協力を上げる、あるいは一部の都道府県でのみ行われていた地域がん登録を補完して全都道府県のがんの実態を把握できるようにすることが中心であったように思われます。当時は「標準項目」よりもずっと簡素な「必須項目」なるものが併存していたり、UICC(国際対がん連合)のステージにしても必ず入力しなければならないのは5大がんだけだったり、と、今から思えば、まさに黎明期、がん医療のデータ源というには、とても簡素なものだったと思います。

それが、時代が進みました。地域がん登録は全都道府県で行われるようになり全国がん登録として結実、院内がん登録においては実務者の皆さんの研鑽の成果で、全てのがん種のUICCステージの収集が必須化され、さらに告知や他院で行われた初回治療など新しい項目が追加されるなど拡充しました。以前のような地域がん登録の補完的位置づけを完全に終え、真に診療の向上に資するデータを作り出す確固たる制度に成長したと言えます。➤

現在、がん登録実務者の皆様が、日々登録していただいているデータは、がん対策の様々な現場で活用されています。施設毎に年報などを作成して情報公開されることをはじめとして、全国的にも、受診先の病院に迷う患者に対してがん相談支援センターを通じて施設毎の実績を案内する情報源となり、希少がん対策のワーキンググループでは検討に必要なデータ源として活用、さらに、院内がん登録単独だけではなく、診療群分類包括評価(DPC)調査のデータと連結して、がん医療の均てん化を全国レベル、病院レベルでモニターするがん診療評価指標(QI)の集計に、がん対策の評価のためのアンケートを患者体験調査の対象者抽出に、また、石綿健康被害救済制度の基礎データの収集に、と様々な政策的な重要な場面で活用されています。もはや現在のがん対策は、院内がん登録無くして、医療面でのがん対策は考えられないほどのです。

こういった活用が可能なのも、各施設でがん登録実務者の皆様が丁寧にデータを入力していただいているからです。国立がん研究センターがん登録センターとしては皆様の活動を可能な限りサポートしたいと考えておりますし、院内がん登録を通じて、皆様方の施設の現場と国のがん対策を連携させていくつもりです。データに関する仕事は一人一人の患者さんに接する仕事と違って、患者さんが良くなっていく過程を見ることはできません。でも、実際には非常に多くの患者さんが、データでわかった、またはデータの解析でわかったことで救われていると思います。登録作業に疲れたらそんなことに思いを馳せてもらえれば幸いです。また日頃の作業にこの場を借りて感謝の意をお伝え出来たらと思ってメッセージを寄せさせていただきました。

## 関 連 学 会 一 覧

2020(令和2年)

日程	学会名	開催場所
10月1日(木)～3日(土)	第79回日本癌学会学術総会 <a href="https://site2.convention.co.jp/jca2020/">https://site2.convention.co.jp/jca2020/</a>	広島県 リーガロイヤルホテル広島・メルパルク広島・ WEBライブ配信
10月22日(木)～24日(土)	第58回日本癌治療学会学術集会 <a href="https://congress.jsco.or.jp/jsco2020/">https://congress.jsco.or.jp/jsco2020/</a>	京都府 国立京都国際会館・ グランドプリンスホテル京都
10月20日(火)～22日(木)	第79回日本公衆衛生学会総会 <a href="http://jsph2020.umin.jp/index.html#a_online">http://jsph2020.umin.jp/index.html#a_online</a>	オンライン開催